



# ZENFUREN

2013年10月4・5日

## 号外

全国国立大学附属学校連盟  
全国国立大学附属学校 PTA 連合会  
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29  
虎ノ門産業ビル 8F  
TEL : 03-3591-2091  
FAX : 03-3591-2092

### 全附P連PTA研修会 第4回全国大会

## 基調講演-2

基調講演2では、ユニークな才能「ユニークインテリジェンス」を引き出す教育へ。を軸に多くの事例を基に貴重なお話を聞きました。



オードリー・ヘップバーン主演の映画「暗くなるまで待って」をご存じでしょうか？視覚障害者を演じるオードリー・ヘップバーンのアパートに、あることがきっかけで犯罪グループが訪れ、彼女は思いがけない事件にまきこまれます。相手の見えない恐怖。真夜中、命の危機にさらされるヘップバーン。その時、彼女のとった行動は部屋中の明かりを次々と壊していくことでした。さてみなさん、この状況をイメージしてみてください。真っ暗な部屋の中、視覚障害のあるヘップバーンと健常者の犯人。ここでちょっと考えてみてほしいのです。この真っ暗な状況の中で障害があるのはいったいどちらでしょうか？何がどこにあるのか暗くなっても分かるヘップバーンか？それとも暗中手探りで歩もままならない犯人の方なのか？お分かりですね。この状況では、視覚障害がある彼女より、健常者である犯人の方があきらかに「見えない」という障害が生じてしまったのです。状況が変わることで立場も変わってしまったのです。

中邑先生の講演を聴いて思い出したこの映画。環境が変われば障害は障害でなくなるということがあるのです。不思議な話に聞こえますが有り得る話。中邑先生はそこにテクノロジーを活用していくことを訴えられていました。読み書きが苦手な子がワープロを使っ

てもいいじゃないか。記憶の苦手な子がICレコーダーを利用していいじゃないか。計算の苦手な子が電卓を持ってもいいじゃないか。オスカー・ピストリウスのようにカーボンファイバーの義足でオリンピックに参加できる世の中が変わってきた。人工心臓や人工内耳だってそう。障害者だけでなく誰にでもある困難を、テクノロジーを駆使することで補うことができる。

ただ、このように社会は変わっているのに、教育は相変わらず本人のがんばりを求める。がんばっても解決できないことはたくさんある。みんなが読み書きできなきゃダメ。みんなが計算できなきゃダメ。みんな同じように教育しようとするから、元来、凸凹である子どもたちのユニークさを潰してしまうことになる。そうして起こる社会的不適応、、、集団適応できない子を一斉指導に入るようにがんばらせることは傷口に塩を塗るようなことかもしれない。だったら学校を離れても学べる学習のデザインがあってもいいじゃないか、、、環境を変えれば困難は困難でなくなるのだから。

環境を整えるには世間の常識が変化していかなければならない。普段当然と感じていることを疑う中邑先生のお話、私たちが抱える常識の矛盾を示していただいたような気がします。ありがとうございました。



高知大学教育学部附属特別支援学校 PTA  
会長 二宮 啓 取材